

してこいな

やつちやしてこい今夜のお供、ちつと遅れて出掛たが足の早いに我が折れ、田圃は
近道見はぐるまいぞよ合点だ

振つて消しやるなだい提灯に、御定紋つきでつかりと、ふくれた紺のだいなしは、伊達に
着なした奴等さ、武家のかたぎや奉公根性、やれさていつかな出しやしよない、胼や輝踵や
脛に、不二の雪ほどあるとても、何時限らぬ

お使は、かかさぬ正直正道者よ、脇よれ頼むぞ脇よれと、急ぎ廓へ一目散、息をきつてぞ
駆けつける

おんらが旦那は廓一番隠れない隠れない丹前好み、華奢に召したる
腰巻羽織きりりとしやんとしやんときりりと高股立の袴つき、跡に下郎がお草履取つて、夫さ
是さ

小気味ようよう六法振が

なには師匠の其の風俗に似たか

似たぞ似ましたり扱々な

広濶華麗な出立

おはもじながら去る方へ、ほの字とれの字の謎かけて、ほどかせたさの三重の帯、解けて寝た
夜は免さんせ、アア儘よ浮名がどうなると、人の噂も七十五日、てんとたまらぬ
子棲とりやつた其の姿、見初め見初めて目が覚めた、さめた夕べ拳酒に
ついついつい差された盃はうちゑいはまでんす

くはいと云てはらつたはつた、痲痺ちりちりけいのめやいとがくつきりと

捻ぢ切りおいどが真白で、手つ首手の平しつかと握つた石突、こりやこりやこりや
成駒やつとこよんやさ

浮れ拍子にのりが来て、ひよつくり旦那に捨てられた、うろたへ眼で提灯を、つけたり
消したり灯したり、揚屋が門を行きすぎる